

緊急事態宣言解除



稲沢ばらの友松さんから愛知啓成高校へばらの贈り物 (農産物活用支援事業)



SUZUKI 生徒会会長 友松さん 生徒会副会長 足立校長先生

5/14 国の対象地域から愛知等 39 県除外 5/21 近畿 3 府県も除外
5/25 関東 4 都県北海道も除外、宣言全面解除...5/26 県の宣言解除

令和2年5月臨時愛知県議会

5月臨時県議会が27日に開催され、初の**女性議長**(第100代)に神戸洋美氏(64歳、春日井市、5期)、副議長に青山省三氏(68歳、尾張旭市、3期、共に自民)が就任、常任委員会等(鈴木は県民環境委員会と産業イノベーション推進特別委員会に所属)を選任し、議員の期手10%削減、コロナの地方創生臨時交付金増額等の意見書を採択しました。

また、知事からは4月臨時県議会に続き**愛知県新型コロナウイルス感染症緊急対策288億円**(財源は国庫支出金213億円、繰入金13億円、繰越金53億円等)の一般会計補正予算、**あいち医療応援基金**条例の制定や議会選出監査委員の人事案件等が提案され可決・同意しました。補正予算の主な内容は以下の通りです。

1. 感染症拡大防止や医療面での対策

感染拡大防止に向けた施策や医療提供体制の更なる強化、福祉サービス提供体制の確保への取組を実施

- **新型コロナウイルス感染症PCR検査所運営** 5.01億円
ドライブスルー方式等によるPCR検査所(豊明はじめ7か所)を設置・運営、各所当たり各日15人程度の検査を実施
- **愛知県医療従事者応援金** 37.4億円
新型コロナウイルス感染症患者を受入れる入院医療機関に応援金を交付(入院患者1人当たり軽症・中等症100万円・重症200万円・重篤(ICU)400万円)、寄付金により上乗せ交付(同10万円)
- **民間救急病院経営維持資金貸付金** 15.18億円
- **介護** 0.55億円 **障害福祉** 2.57億円 **サービス確保対策事業**

2. 県民生活への対策

県民生活への影響を最小限に抑える各種対策を実施

- **国公立高等学校等奨学給付金制度拡充** 1.94億円
コロナ失職など家計急変により住民非課税世帯に相当する世帯の高校生等へ支給を拡大(36,500円~138,000円)
- **県立学校(高等学校全150校、特別支援学校全30校)学習支援サービス導入** 7.09億円
- **生活福祉基金貸付事業費補助金の貸付拡大**(18.03~34.53億円) 16.5億円

3. 経済対策

経済活動への影響を最小限に抑えるため事業者の事業継続を支援

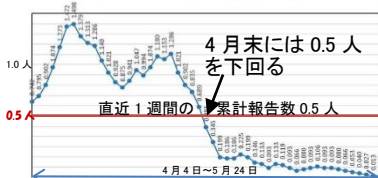
- **愛知県・市町村新型コロナウイルス感染症対策協力金** 108.93億円(4月補正75.5億円と合わせ184.42億円)
休業要請及び営業時間短縮に協力頂いた業者に協力金(市町村と合わせ50万円)、自主的に休業した理容・美容事業者に対し協力金(市町村と連携し20万円)、市町村が独自に実施する休業支援金等に対する支援(最大25万円)
- **農産物活用支援事業費補助金** 4.96億円 需要が低迷している全国一の産出額を誇る花きやつまもの利活用に取組む農業者を支援(支援額20万円)
- **文化芸術団体等の活動支援**(法人20万円、個人事業者10万円等) 6.44億円
- **県内全57商工会での小規模事業者に対する経営支援を強化** 0.2億円
- **介護事務所の介護ロボット等導入支援** 0.5億円 **同障害者施設等** 0.03億円
- **県産牛肉等学校給食提供推進事業費補助金** 23.09億円

●愛知県新型コロナウイルス感染拡大予防対策指針より

【愛知県内発生のお客の状況】



【10万人当たりの累計報告数の推移】



【指標】

| 基準項目 | 注意(警戒)領域 (イエローゾーン) | 危険領域 (レッドゾーン) |
|--------------------------------------|-----------------------|------------------|
| (1)新規感染者数 (過去7日間の平均) | 10人 | 20人 |
| (2)陽性率(過去7日間) (陽性者数/検査者数) | 5.0% | 10.0% |
| (3)入院患者数 (過去7日間の平均) (確保病床500床) | 150人 | 250人 |

帰国者・接触者相談センター

一宮保健所 0586-72-1699
(一般相談 0586-72-0321)

コロナ県民相談総合窓口

052-954-7453 (AM9時~PM5時)
Eメール sodan-corona@pref.aichi.lg.jp

中小企業総合相談窓口

県産業政策課 052-954-6330
(平日 AM8:45~PM5:30)

中小企業金融・給付金相談窓口

● **経済産業省の持続化給付金**(上限法人200万円、個人100万円)など
0570-783183 (AM9時~PM5時)

STEP 21 県政

2020 R02



REPORT

4月に引き続き第2期愛知県人口ビジョンの概要です。

密を避けて行動を抑制してください！

換気の悪い閉空間、多数が集まる集場所、近くで会話や発声をする接場面

2. 人口の動向を踏まえた今後の課題

●段階的緩和ステージ①6/1(月)～ ②6/19～ ③7/10～ GoToキャンペーン7月下旬～ 移行期間後 8/1 目途

| | 県をまたぐ移動 | 観光 | コンサート | プロスポーツ | |
|------|----------|--------|---------------|------------|-----------|
| 移行期間 | 6/1(月)～ | 東京等へは△ | 県内で徐々に | 50%上限 100人 | × |
| | 6/19(金)～ | ○ | 県をまたぐものを含め徐々に | 50%上限 1千人 | 無観客 |
| | 7/10(金)～ | ○ | ○ | 50%上限 5千人 | 50%上限 5千人 |
| | 8/1(土)～ | ○ | ○ | 50% | 50% |

(1) 人口の自然増減の観点から

- ・晩婚化・未婚率の上昇、合計特殊出生率の足踏み状態、男女比のアンバランス、高齢者の急増(団塊・団塊ジュニア世代)、地域差

(2) 人口の社会増減の観点から

- ・外国人の増加傾向、若年層(特に女性)の東京圏への転出超過

(3) 地域構の観点から

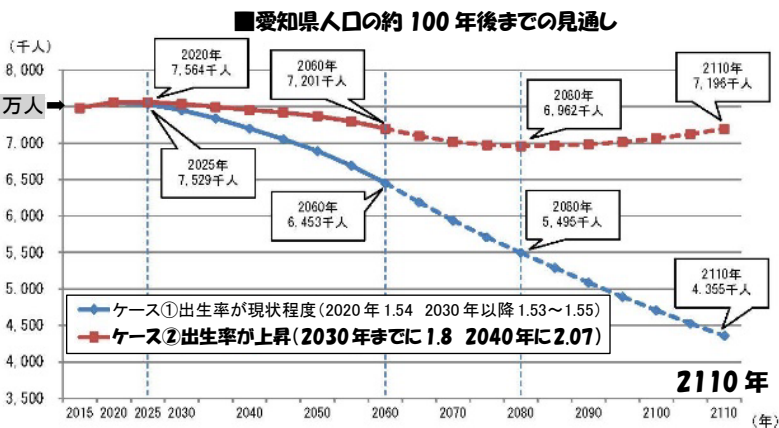
- ・人口増の地域(名古屋市等・西三河)と減の地域(海部・東三河)などの地域差、老年人口の推移(増加)の地域差

- ・少子高齢化の影響を緩やかに、未婚率の上昇・少子化への対応、医療・介護等の受け皿整備、生き甲斐・健康寿命の延伸
- ・多文化共生社会の実現、若者がチャレンジできる産業の育成・集積、起業支援、女性への魅力向上、住みやすさの発信
- ・移住・定住の増加、関係人口の拡大、地域格差・集落機能の弱体化・高齢者への対応

3. 目指すべき方向と人口の将来展望

- ・愛知の強みを伸ばし課題を克服することで、人口の維持・増加を図り、東京一極集中にストップをかけ、日本の発展をリード

人口のピークは第1期人口ビジョンの
2020年→2025年に後ずれ
2060年時点の推計*も
700万8千人→720万1千人に上振れ
※前回推計同様出生率が上昇(ケース②)の場合



■第2期愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略 計画

期間 2020～2024 年度

1. 第2期に向けた基本的な考え方

「日本一元気で、すべての人が輝く、住みやすい愛知」を目指して、東京一極集中にストップをかけ、日本の発展をリードしていけるよう、地方創生に全力を尽くす

「日本一元気な愛知」の産業力のさらなる強化

- ・CASE(Coネクティッド化 A自動運転化 Sシェア/サービス化 E電動化)やMaaS(Mobility as a Service*)をはじめ経済・産業にとり大変革期を迎えているなか産業力のさらなる強化とイノベーションを促進し新たな産業を創出することで人を呼び込む力を向上
- ・ジブリパークを始めとした新たな魅力の創造・発信、県内大学の魅力づくり活性化を図り若者等を引きつける魅力ある地域づくりを推進

すべての人が活躍する「日本一輝く愛知」のさらなる進化

- ・性別・年齢・国籍・障害の有無に関わらずすべての人が活躍する社会、生涯働き暮らしていける地域づくり

「日本一住みやすい愛知」のさらなる発信

- ・U・I・Jターンの促進、本県の住みやすさを発信し東京圏等からの還流と定着、関係人口の創出・拡大

2. 重視すべき視点

- 視点1 時代の流れを力にした産業革新・集積
- 視点2 人材を育て、生かす
- 視点3 新たな魅力の創造と発信
- 視点4 若い世代の希望をかなえ誰もが活躍できる社会
- 視点5 バランスのとれた持続可能な地域づくり

- (第1期の視点)
- 産業を強くし職場をつくる
 - 地域の魅力を磨き上げ、発信する
 - 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - 活力ある地域をつくり、バランスある発展を目指す

イベント等
イベント等中止が続きますが、6月県議会は6月17日、市議会は11日開会予定です。



●国の緊急事態宣言の再指定は直近1週間の報告数 10万人当たり0.5人、愛知県では33.7人などが目安です。



STEP2



感染者の市町村別の公表*は実施されましたが保健所を持つ中核市等とでは情報にも差があり支援事業も市町村で異なるのが現状です。非常時には県も市町村も、会派も議会も連携協力した対応ができる仕組み・意識づくりが必要と感ずます…未来へつづきまちづくりへ 一生懸命動きます。 愛知県議会議員 鈴木じゅん

*感染者の方の氏名等の誤った掲載では多大なご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。県では今までの「室」から新たに「感染症対策局」を設置し体制を強化しました。